

## 安全情報

2016 年 4 月 15 日

非血縁者間骨髄採取認定施設  
採取責任医師 各 位  
輸血責任医師 各 位

公益財団法人 日本骨髄バンク  
ドナー安全委員会

### 骨髄液バッグのシーリングについて(注意喚起)

拝啓

時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび骨髄移植施設より、「①骨髄液バッグにヒートシーリングがなされていない、②断端に血液が付着している。」、更に、骨髄採取施設より、「③シーリング時にチューブが破断した。」との報告がありました。

これらの報告を受け、当法人(ドナー安全委員会)で検討した結果、再発防止の観点からこれらの情報を各採取施設にお伝えすることとし、骨髄バッグのシーリングにおいては以下の対応とすることとしました。

つきましては、内容をご確認いただき、適切なご対応をお願い申し上げます。

敬具

記

対 応 :

- 1) 一番外側にヒートシーリングを行い、それより内側を1~2カ所結び目やクランプで留めること。

※移植施設において無菌接合器を使用する場合は、事前に採取施設に伝えること。

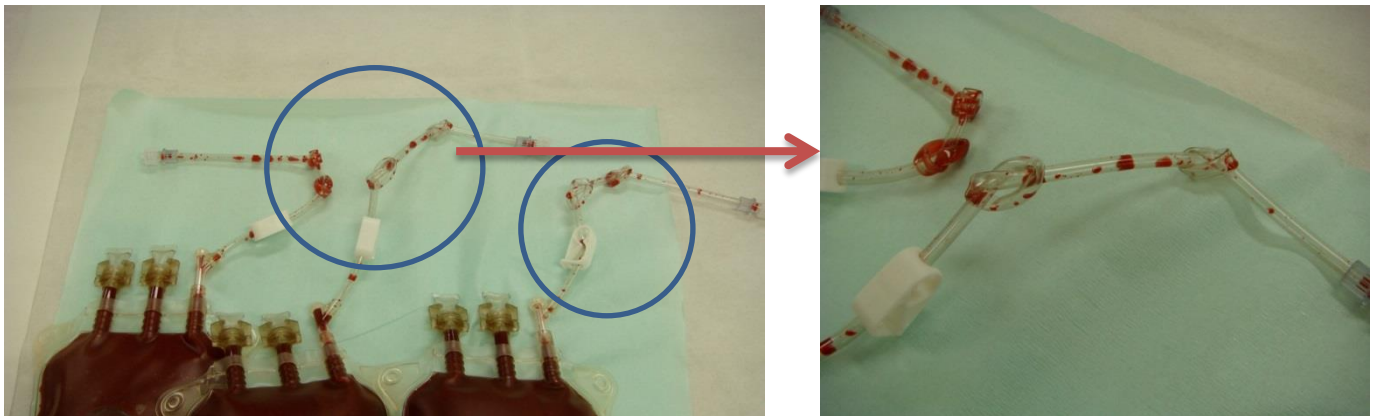
- 2) 手渡す前にバッグやチューブが骨髄液で汚染されていないことを確認すること。

以上

■本件に関する問い合わせ先  
公益財団法人 日本骨髄バンク  
ドナーコーディネート部 折原  
TEL 03-5280-2200

＜参考＞

事例1（シーリング未施行）



事例2（シーリング時にチューブが破断）



■ 推奨されるシーリング例 「骨髓採取マニュアル(第四版)」より抜粋(P12)

